

にらさき

No. 80

令和7年4月号

社協だより & ボランティアだより



第40回
韮崎市社会福祉大会

～誰もが安心して、充実した暮らしができる福祉のまち～



社会福祉法人

韮崎市社会福祉協議会

〒407-0037 山梨県韮崎市大草町若尾1680
(韮崎市老人福祉センター内)

TEL 0551-22-6944 FAX 0551-22-6980

■ TEL (法人後見専用) 0551-30-6011

E-mail : info@nirasaki-shakyo.or.jp

韮崎社協ホームページ▶



運営事業所

■ 居宅介護支援(ケアマネージャー)事業所

TEL 0551-23-5040

FAX 0551-23-5040

■ 大草デイサービスセンター「こぶし荘」

TEL 0551-23-5080

FAX 0551-23-5040

韮崎市社会福祉協議会

検索

第40回

蕪崎市社会福祉大会

2月21日(金)東京エレクトロン蕪崎文化ホールにおいて、第40回蕪崎市社会福祉大会を開催し、市内の福祉関係者等129名の方にご参加いただきました。

式典では、長年にわたり地域福祉に大きく貢献された個人・団体(受賞者は別表のとおり)に対して、表彰状、感謝状の贈呈を行いました。

式典後は蕪崎東中学校1年伏見思乃さん、蕪崎西中学校2年入戸野幸実さんに心に響く福祉関係作文を発表していただきました。

『不自由だけど不幸ではない』と題した、車いすラグビー元日本代表 官野一彦氏による講演では、22歳の時にサーフィン中の事故により車いす生活を余儀なくされてから、車いすラグビーに出会い、2016年リオデジャネイロパラリンピックにて日本車いすラグビー史上初の銅メダルを獲得するまでの、葛藤や苦悩、家族の支えや恩師、仲間との出会いなど、ご自身の経験を通して夢を目標に変えるには自分は今何をすべきか、本当の共生社会とは何かなど、お話いただきました。参加者からは『本音で語る講演で、心に響いた。改めて自分の生き方を考えさせられる機会になった。』『ひとつひとつの言葉に感動した。』との声が聞かれました。

別表

受賞者

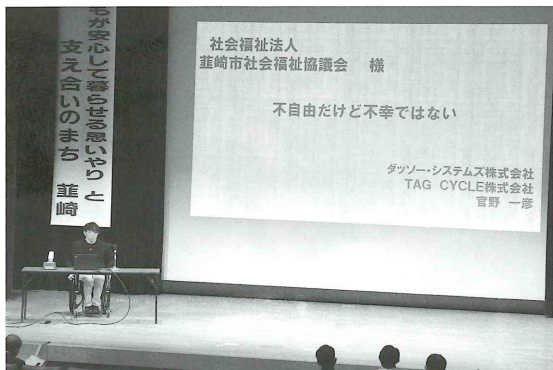
◆表彰

堀井 実
歌橋 和也
黒部 彩香
佐野千津香
長田 佐子

◆感謝状

社会福祉法人
山梨県手をつなぐ
親の会

(順不同敬称略)



福祉関係作文

*作文は原文のまま掲載
しています。

「認知症サポーター講座を受けて感じたこと」

蕪崎東中学校 1年 伏見 思乃

蕪崎東中学校では、10月に1年生全体で「認知症サポーター講座」を受講しました。蕪崎東中学校の1年生は4クラスですが、それぞれのクラスに蕪崎市の認知症サポーターの方たちが来てくださり、「認知症」について詳しくお話ししてくださいました。

「認知症」についてあまり知識がなかった私にとって、DVDを視聴したり図でわかりやすく説明をしてくれたり、認知症について講師の方から教えていただいたりしたこと、大変有意義な時間となりました。

私は認知症は病気ということとは知っていましたが、認知症になると今までの記憶を忘れてしまうだけでなく、新しい情報が頭に入らないことを初めて知りました。しかし、今回の講座で学んだことを活かして、認知症の人に出会ったら「認知症の方は憶えていたくても憶えていられない」ということをしっかりと理解して、適切なサポートができ

るようにしていきたいと思っています。講座では、認知症の原因や症状、診断方法、治療法などについて、詳しく説明がありました。また、認知症の方への接し方や家族のケア方法についても学びました。特に印象に残ったのは、認知症の方への接し方について繰り返し言われた「驚かさず、急がせず、優しく接する」という言葉です。

認知症の方にとって、環境の変化や急な指示は大きなストレスになると聞きました。そしてまず、その人に気持ちを落ち着けてもらうことが必要だそうでした。認知症の方が道に迷っていた時、突然「早く目的地を教えてください」と声をかけると、パニックに陥ってしまふこともあるそうです。そういう時には、「どこにいきたいの?」と優しく声をかけ、落ち着いて、まずどこに行きたいのか聞いて話ができるようにすることが必要だと聞きました。認知症の人にどう接すれば良いのか理解



していると正しい対応ができ、認知症の人もしつかり話を聞いてくれると、視聴したDVDでも言っていました。こうしたことから、私は認知症サポーターが増えていくことで、認知症の方に出会った人も認知症の人も安心だと思いました。

そして、認知症は生活習慣病になると発症しやすいというところを、認知症サポーターになることで教わります。また、認知症にならないために運動不足を改善したり食事をバランスよく取ったり、予防ができるようにすることで認知症になりにくいという事も知ることができます。そのため、認知症になる人も減らす事ができると思います。

また、認知症サポーターの人は認知症の人に出会ったらどうすれば良いかを教わります。

す。そのため、認知症になったとしても病気だからと言って生活を制限されることなく暮らしていける社会に行きたいです。そんな社会にするためには、一人一人の取り組みが必要だと思っています。で

「健常者の壁」

葦崎西中学校 2年 入戸野 幸実

みなさんは視覚障害について、どんな認識をもっていますか。私は一冊の本に出会うまで視覚障害についての深い知識も、強い認識もあまりありませんでした。しかし、その本を読んでから私の視覚障害に対する認識は大きく変わっていきます。

その本は視覚障害をもった中学生が健常者との大きな壁にぶつかる様子が描かれています。作中、視覚障害をもった一人の少女が白杖で点字ブロックを頼りに歩いているとき、歩きスマホをしていた若者にぶつかり、怒鳴られてしまふシーンがあります。このシーンを読んで私は、まさに現代で起こり得ることだと思いました。スマートフォンに夢中で点字ブロックや少女が見えておらず、衝突してしまふ。これは誰もがスマホ

すから、私も「認知症ってこんなふうにしたら予防できるんだよ」や「認知症の人に接する時には『驚かさず、急がせず、優しく接する』事が大切だよ」などと、呼びかけていきたいです。

を持つ現代で簡単に起こってしまうと思います。また、私が一番怖いと思ったのは、それを見て少女に優しく声をかける人が誰一人いなかったことです。「自分がやらなくても他の誰かがやってくれる」と、いつの間にか逃げてしまふのだと私は思います。みなさんもそんな経験が一度はあるのではないのでしょうか。私は学校で配られていない配付物を見たとき、「誰かがやってくれる」と人任せにしまつたことがあります。作中で起こってしまったシーンも私の経験も、共通して言えることは周りの人が「見て見ぬフリ」をしてしまったことでしょう。「自分だけが他の人と違う行動をするのが怖いから。」「自分には関係のないことだから。」など、理由は様々だと思っています。

歩きスマホをしていた若者も、障害者を傷付けてしまっている自分に対して、見て見ぬフリをしていたのかもしれない。しかし、障害者の道を示す点字ブロックや歩行を支える白杖など、ヒントはたくさんあったのに関わらず、衝突し怒りをぶつけてしまふという行為はあってはいけなものです。この若者に足りなかったのは「視覚障害者への理解」だと思っています。障害者を助けるための物や、周りに障害者であることを知らせるためのマークなど、知識をもっていれば周りの人が止めることも、若者自身が思いとどまることもできたはず。この二つの事例から私が大切だと思ったことは一人一人が当事者としての意識をもつことです。周りにいた人は傍観者になるのではなく、障害者のために行動しようとする。私たち健常者にもできることはたくさんあるはず。私は身近に障害をもった方がいません。そんな人が大多数だと思っています。障害をもつということがどれだけ大変なのか、私たちはどう接すればよいのか。なかなか、考える機会も知れる機会もありませんでした。しかし、今回のこの作文を通して健常者の私でもでき

ることはあると知れました。そして私がこの作文をきつかけに考えたのは「健常者と障害者との壁」です。私たち健常者は、いくら障害者の立場になつて考えてみても本当にその大変さや苦しさを味わうことはできません。そして障害者と出会ったとき、自分と区別してしまふこともあるでしょう。そんな時、私たちに必要なのは障害を異質のものとして捉えるのではなく、自分にはない一つの個性だと思つて接することだと私は考えます。健常者と障害者にある壁はお互いを違う視点で見ること、より理解し合えるものに変化していくのではないのでしょうか。そして、それが健常者と障害者の共生の鍵になると思います。

私は一冊の本との出会いで視覚障害に対する認識が180度変わりました。障害をもった方が私たち健常者に求めることは何なのか。どんな物に助けられているのか。など、今はとても興味をもっています。この興味がもっといろいろな人にも広まっていてほしいです。そしていつか健常者と障害者が心の底からわかり合える社会を私は作っていきたいです。

赤い羽根共同募金 ご協力ありがとうございました

令和6年度募金額

4,940,553円

(令和7年3月4日現在)



令和6年度共同募金へ温かいご寄付をお寄せいただき、誠にありがとうございました。市民の方々をはじめ、市内各事業所及び関係機関の皆様のご理解とご協力により、多額の募金が寄せられました。お寄せいただいた募金は、「じぶんの町を良くするしくみ」として、約70%が市内の地域福祉を推進する活動に配分されます。社協の事業のほか、高齢者及び障害者施設への助成、防災などの様々な分野において活用されます。また、残りの約30%は、県全体の広域的な活動や災害などの準備金として使用されます。

事業所募金芳名

■ 荻崎地区

● 1,000 円
(有)マルハク新聞舗
● 3,000 円
梨北農業協同組合
山梨トヨペット(株)荻崎店
(有)原木工
亀伝
クレール ヤマガタヤ
● 5,000 円
ENEOS 荻崎北給油所 秋山油店
滝田建材(株)生コン事業部
(株)柳建工業
(株)荻崎新聞販売センター
七星商会
(株)興石運送土木
(有)興石自動車工業
小屋歯科医院
清水屋旅館
(株)上田商店
(株)シミズヤ
(有)フカサワ
シャトレーゼ 荻崎店
(有)清水ビルディング
(有)荻崎スズキ販売
● 10,000 円
高野産業(株)
(株)ニラボウ
(株)アートプリント
駒井土建(株)
井筒屋醤油(株)
(株)セレオ
(株)オズホーム
医療法人 いいのクリニック
(株)ヨコカワ
山本製麺所
(有)甲斐タクシー
関東電設(株)
峽北工業(株)

昭和産業(株)
富士島建設(株)
山梨農産食品(株)

■ 穂坂町

● 5,000 円
(有)砂畑建材
藤原整骨院
(株)滝田電気商会
(株)コクテール堂 山梨営業所
(株)日設管興
福德長酒類(株)荻崎工場
横森自動車整備工場
● 10,000 円
(株)信和
医療法人 荻崎東ヶ丘病院

■ 藤井町

● 3,000 円
アミューズメントサービス(株)
たのくらクリニック
ますやま整形外科クリニック
● 5,000 円
理容オザワ
鮎政
(株)林製作所
(有)丸忠中込組
藤森耳鼻咽喉科医院

■ 中田町

● 3,000 円
マイルストーン
ほっともっと 荻崎中田店
● 5,000 円
国土興産(株)
萩原製菓
(有)村上石材店
● 10,000 円
(株)菊島
(有)秋山組
守屋歯科医院

■ 穴山町

● 3,000 円
能見園 河西ワイナリー
アルプス中嶋
● 10,000 円
守屋 久
(株)島村組
(株)関東技研

■ 円野町

● 5,000 円
(有)エース・エイト
細田設備
一木産業
(有)細田工務所
● 10,000 円
(株)内藤
(有)細田組
● 20,000 円
(株)内藤ハウス

■ 清哲町

● 3,000 円
小澤工業(株)
インターナショナルアロイ(株)山梨事業所
中部工業(株)荻崎工場
藤巻ブロック工業所
(有)成工建設
(有)水上測量調査事務所
雀荘カラオケ ひまわり
(有)三枝商事
● 5,000 円
(株)山中産業
● 10,000 円
甲斐プレコン(株)
滝田建材(株)清哲碎石工場

■ 神山町

● 5,000 円
(株)宮川商店
(株)博山

高橋金属(株)

肴や くうかい
● 10,000 円
横内 良隆
武田乃郷白山温泉
旭陽電気(株)
(株)赤井輸送
(有)クヌギ螺子製作所

■ 旭町

● 5,000 円
秋山製作所
田中自動車工場
(株)久保田自動車整備工場
豊栄工業(有)
(株)石原精機製作所
樋口自動車整備工場
(有)長沢製作所
(有)山一建設
● 10,000 円
(株)エーワン精密
(株)ササキ
(株)東光重機サービス

■ 大草町

● 5,000 円
菊島設備(株)
(株)アイメックス
● 10,000 円
(有)タクト
秋山脳外科
野沢精工(株)
三井金属ダイカスト(株)
(株)荻崎電子

■ 龍岡町

● 3,000 円
(有)土橋工務店
セブイレブン御勅使工業団地入口店
愛の家グループホームにらさき
(株)大丸金属
● 5,000 円
中部建材興業(株)
荻崎観光自動車(株)
中嶋整骨院
(有)テラワン
(株)ちばりコンフェクショナリー荻崎工場
ブックジョイ荻崎竜岡店
(有)柳川丸庄製缶工業
● 10,000 円
清水工業(株)山梨工場
明友機工(株)
山梨化学工業(株)
(株)サンフーズ 荻崎工場
竜伸工業(有)
ツルヤ化成工業(株)
(有)荻崎ゴルフ
キンキ製工(株)
堀川鋳金塗装工場

■ 山梨県共同募金会受付分

● 30,000 円
社会福祉法人 信和会 穴山の里

■ 街頭募金

募金箱設置にご協力いただいた事業所
ザ・ビック荻崎店

(順不同敬称略)



「第3回 地域づくり勉強会」

地域支えあいフォーラムで地域づくりに関して興味を持っていた方を対象に、2月18日(火)に第3回目となる勉強会を開催しました。講師は地域支え合いプロジェクトアドバイザー・保坂和輝氏をお招きし、「場と場のつながりが地域を支えるー2層協議体の存在する意味ー」と題して講演を聞き、その後グループワークを行いました。講演では、第1回、2回目で学んだ「協議体」「つながり」「社会的処方」などの振り返りを行い、グループワークでは、地域における移動とゴミ出しに関する問題をテーマに意見を出し合いました。



第32回 こぶしボランティア大会を開催



1月22日(水)荏崎市老人福祉センターにおいて、荏崎市ボランティアの会の会員67名の参加を得て開催しました。

開会行事終了後には、作業療法士・地域支え合いプロジェクトアドバイザーの保坂和輝氏による「身近なところから始まる地域づくりー認知症の人でも誰もが孤立・孤独しない地域を目指してー」と題し、ご講演いただきました。

講演では、健康ってなんだろう?という問いから、地域におけるつながりの大切さや、認知症との向き合い方・考え方など、実際に支援してきた事例を交えながら話していただきました。講演の随所で、「2つのことを同時に行う」「左右で違う動きをする」といった普段慣れない動きで脳を適度に混乱させ、さらに効果的な刺激を与えることで、脳の機能が高められると考えられている「シナプソロジー」を参加者全員で行い、簡単そうで難しい動作に、会場は盛り上がりしました。

荏崎市ボランティアの会 支部活動報告

《藤井支部》

藤井支部では、11地区63名の会員で活動しています。令和6年度は、社協の活動としてのデイサービスボランティアやひとりだち料理教室、障がい者交流運動会、県外研修等に参加、また老人福祉センターまつりでは、5年ぶりに再開された遊休品等の寄付によるバザーへの協力を行うなど様々な活動を通じて交流を深めることができました。

支部としての活動では、長年続けているたんぽぽ保育園への折り紙や雑巾の寄付を行いました。またそれぞれの地区では、催しなどへの参加協力や高齢の方々ととの定例の茶話会等を通じて楽しい時間を過ごしました。

1月に開催されたこぶしボランティア大会では、「身近なところから始まる地域づくりー認知症の人でも誰もが孤立・孤独しない地域を目指してー」と題して作業療法士の保坂和輝先生から講演をしていただきました。地域づくりのベースは「人」や「場」とのつながりであり、誰もが「お互い様」の関係でつながることや、地域にいくつもの「場」があることで人との出会いやつながりが連鎖し、孤独や孤立をつくらない地域になつていく等々大変わかりやすく話をしてくださり、ボランティアの会も「場」の一つであると改めて実感しました。

ボランティアというと、何かしなければと考えてしまうこともありましたが、私達が日頃行っている身近な人と声をかけあったりすることもボランティアであり、その積み重ねが大切であると思いました。

藤井支部の活動も、会員同志つながりあって、今後より良い活動となれるようにしていきたいと思っています。

支部長 貝瀬 京子

〈シニアクラブ会員募集！！〉



韮崎市シニアクラブ連合会は、住み慣れた地域で、新しい仲間と共に生きがいのある活動的な毎日を過ごしていきたい高齢者の集まりで、市内在住の満60才以上の方ならどなたでも加入いただけます。
楽しい語らい、健康づくり、お互いの助け合いの活動、趣味や教養文化学習スポーツや旅行など私たちと一緒に楽しみましょう。



私たちはこんな活動をしています！

- ✳ 生きがいづくり・・・趣味、文化、レクリエーション活動等
- ✳ 仲間づくり・・・健康学習、運動、体力測定等
- ✳ 地域づくり・・・例会、声かけ、親睦、旅行等
- ✳ 健康づくり・・・環境美化、ボランティア、世代間交流等

お気軽に
ご連絡ください

【連絡先】 韮崎市シニアクラブ連合会事務局

☎ 22-6944

✉ mizukami@nirasaki-shakyo.or.jp

峡北地区高齢者作品展

今年度も「峡北地区高齢者作品展」が、韮崎市民交流センターニコリ地下アートギャラリーで1月31日から2月5日まで開催されました。韮崎市からも44名58点のすばらしい作品が出品されました。

また、この作品展は「山梨県シルバー作品展」への出品の選考を兼ねており、韮崎市からは次の作品が選ばれました。

● 日本画の部	田中 康子様
● 彫刻の部	矢吹 春子様
● 工芸の部	鈴木 靖男様
● 書の部	中村 實様
● 写真の部	高添 眞一様
	兵藤 光久様
	渡辺 吉基様

大草デイサービスセンター

こぶし荘

☎23-5080

こぶし荘では『やさしい心』を
基本理念に“ほっとできる毎日”
“楽しい一日”“元気で長生きのお
手伝い”ができるよう利用者様一
人ひとりに寄り添ったケアに取り
組んでいます。

デイサービスの一日

8時30分～

お迎え



9時15分～

体調確認
入浴・体操

12時～

昼食
趣味活動

14時30分～

体操・おやつ
歩行訓練
レクリエーション

16時20分～

お送り



七夕まつり

季節行事

お花見



ひな祭り



夏まつり



節分会



運動会



敬老会



正月遊び



クリスマス会



利用者様募集!!
いつでも見学できますので
お気軽にご相談ください

職員募集!!
働き方は応相談
明るい職場で
一緒に働きませんか

社協よりお知らせ

生活困窮者自立支援事業

一時的に困っているご家庭に、食料品や日用品をお渡ししています。



- ・市内在住の家庭に年3回まで、それぞれの家族状況に合わせて物品を調整します。

電話にて申込

社協(老人福祉センター)にて受取り

- ・物品のお渡しは、平日の8:15~17:15ですが、夕方の遅い時間や土曜日の対応も可能です。

お米の寄付もお願いします。



地域の皆様から寄せられた保存食品や日用品と共同募金の配分金で購入した物品を揃えています。

【令和6年12月~令和7年2月報告】

♥寄付をしてくださった方々【12件】

- ・藤井町 小松さん
- ・葦崎市心身障がい児(者)父母の会
- ・山梨県社会福祉協議会
- ・おひさまの会
- ・匿名6名

♥物品を利用された方【11件】

- | | |
|---------|---------|
| ・旭町 2件 | ・藤井町 2件 |
| ・龍岡町 1件 | ・中田町 1件 |
| ・葦崎 1件 | ・大草町 1件 |

温かいご厚志ありがとうございました

- 有井 和枝 様 女性用下着、おむつ、食料品
- 大柴十四昭 様 碁石、碁盤
- 鈴木 孝夫 様 麻雀牌一式

お問い合わせ

葦崎市社会福祉協議会 ☎ 22-6944

移動支援ボランティア『おでかけ』メンバー募集

移動支援は65歳以上の高齢者世帯または単身世帯、障がい者世帯などで、運転できる方がご家族にいない方で、ご自身で乗降できる方を対象としています。

通院や買い物など、利用者の希望に沿って活動を行っています。

運転できる方はもちろん、出来なくても付き添いなどでご協力いただける方を募集しています。

無理なく、自分が活動できる時に活動し、メンバー同士で楽しく考えながら事業に向き合っています。

興味のある方は、お気軽に社協までご連絡ください。

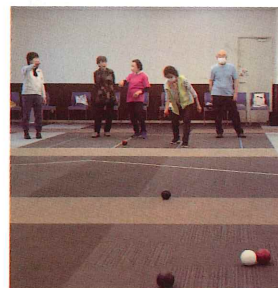


葦崎市身体障害者福祉会 会員募集

身体障害者手帳をお持ちの方、
一緒に活動してみませんか？

会員相互のふれあいと親睦を図り、生活の質の向上、福祉増進、社会的・経済的な自立を目指す団体です。近年では会員だけの活動にこだわらず、一般の方と一緒にボッチャを楽しむことや、子どもと手話体験講座を行い、広く障がいの理解を深める活動もしています。

加入希望の方はお気軽に事務局へご相談ください。
※年会費500円



■連絡先 葦崎市身体障害者福祉会事務局

☎ 22-6944

✉ mizukami@nirasaki-shakyo.or.jp

令和7年度 ボランティア活動保険のご案内

日本国内のボランティア活動中におこる様々な事故に対する備えとして、無償で活動するボランティアの方々のために発足した保険制度です。

保険に加入したい方は、葦崎市社会福祉協議会へお問い合わせください。

随時保険加入を受け付けています。



この広報誌は皆様からいただいた赤い羽根共同募金の配分金により発行されています。赤い羽根共同募金は、募金額の60~70%が地域に配分され、高齢者や障がい者の方々を対象とした各種福祉事業や老人憩いの家整備（修繕・備品購入）等に活用されています。